

<研究名称>

多発性硬化症患者による血清ビタミンD濃度の季節的変動と臨床症状に関する研究

<研究申請者>

脳神経内科 浦 茂久

<研究期間>

倫理委員会承認後から 2021 年 12 月 31 日まで

<研究の目的・意義>

多発性硬化症 (MS) は高緯度地域に有病率が高く、健常者に比べビタミン D 血中濃度が低いとの欧米データも報告されている。またビタミン D はの骨代謝に影響するだけでなく、免疫調節作用を有していることが解明され、MS の病因においても重要な働きを有していることが推測される。日本でも高緯度地域である北海道の MS 有病率は高いとされており、研究では MS 患者は健常者に比べ血清ビタミン D 濃度が低く、さらに MS のなかでも二次進行型では特にビタミン D 血中濃度が低いこと、さらにビタミン D 血中濃度と重症度は逆相関を示すというデータが得られた。一方、ビタミン濃度は紫外線レベルにより影響されることが指摘されており、日本人において必要なビタミン D を得るための日照時間に関しては、南北差があり、特に冬場においては大きな違いがあるという結果が示されている。前回、九州大学との共同研究で、冬期の患者血清を用いて北海道と九州の MS 患者での研究では、健常者に比べてビタミン D 濃度が低いことを改めて確認したが北海道と九州の健常者・患者での優位な差は認めなかった。

これまでは、採血は一点の時期だけだったため、ビタミン D 濃度が MS 患者において季節ごとに変動があるのかを調べてみる。また、その変動が重症度や再発率との関連はそうなのかといったことを検討する。

<実施内容 (方法)、危険性 (副作用) 等>

血液を採取、採取量は 1 回あたり 10ml。通常の採血時に季節毎に追加する。年 4 回、出来るだけ 3 か月毎、季節の定義は、春：4～6 月、夏：7～9 月、秋：10～12 月、冬：1～3 月とする。測定項目は血中ビタミン D 濃度を測定する。

<実施責任者・実施に関わる者の氏名>

責任者 脳神経内科 部長 浦 茂久

協力者 脳神経内科 黒島 研美、阿部 恵、田中 大貴、吉田 一人

<倫理上問題になると考えられる事項、その他特記事項>

本研究の全ての担当者は「ヘルシンキ宣言」及び「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」を遵守して実施する。

<ICのための説明・同意に関すること>

同意説明文書を研究対象者に渡し、文書及び口頭による十分な説明を行い、研究対象者の自由意志による同意を文書で取得する。

<問い合わせ先>

当研究に自分の試料・情報利用を停止する場合等のお問い合わせ

〒070-8530

旭川市曙1条1丁目1番1号

旭川赤十字病院 脳神経内科 浦 茂久

TEL 0166-22-8111

FAX 0166-24-4648